北越雪譜

北越雪譜二編叙

京山人百樹

青空文庫

北越雪譜六巻越後塩沢鈴木牧之老人雪窗囲炉寒燈隠几随筆、其事出実脚徒非構空架虚之談、然翁固不必期於梓行矣、嚮者郵筒懇乞校正、為之芟刈蕪蔓摭擷菁英先輯三巻以為初編、告翁使書肆文渓堂刊布之、然後越雪之奇千彙万状供臥遊資錦室婦妾市窓妻婢得詳知越※、解士通人或云格致之一助、爰以雪譜之名頗踴躍、於是乎書肆頻乞嗣撰、蓋以知其残稿在也、余謂不踏越地不可説越事、仍丁酉之夏携児京水越遊数十日有紀行作、再採数修刪補翁之残稿以為二編稿定将置序言焉、頃者暁春連日放晴紅酣緑戦花神旺壮遊心勃興、欲詣賽成田山威怒王祠以療錐毛之痾矣、夫成田山香火之盛世之所知也、凡自江戸到成田者抵小網※橋岸買搭船水路直往行徳、都人皆以為捷径、蓋行徳一市会也、不必成田香火者搭船常歯列于橋岸待行客、是以俗呼茲岸云行徳河岸呼茲船云行徳船、余亦臨此搭船、其所供載者多是庸卑雑沓猥褻衆口喋嘈、余傍在一僧一士一商、僧年歯六十許従一童僧、士可二十四五誇觜軽俊殆似学究、商半老※憧市様、相倶接膝、余箝黙不敢出一語、瓦屋漸尽両岸茅葺桜花浮雪　柳吐烟村落春景百逞如画頗水行之会心也、船既過半途庸卑多就眠嘈々自罷寥々可悦、壮士出墨斗持懐楮※句、果是書生也、老僧以鑿鑿鏡披書、士閣筆曰尊者所執是何書、僧曰北越雪譜、士曰僕嘗読之兎園冊子何足以閲、僧曰貧道一錫留于北親知越雪故特購之供以読矣、今閲京山人序彼少識字乎、士曰否々不然、夫京山者文場之奴隷芸苑之※※也、近年随落乎稗史院本之泥中汚塗姓名遂不能脱其窠窟、雖然彼自為李漁金人瑞之流亜文客争許之乎、僧咍然笑而不応、余佯睡聞之、商已烟曰鄙人書賈也能識刊行之趣、凡上梓之書不論編輯之荒誕与詞章之奇雋只以多鬻為大著述奉其作者為揺銭樹翁、雖感服韻士新書苦其不売唾而不顧、是書肆之通義曹耦之常態也、北越雪譜初編之梓一挙販七百余部刷板装本至不暇給故二編刻発兌当有近矣、士不然其言調舌不止鼓觜頻敲、僧手釈巻曰、論説姑置足下識京山乎否、士曰不識、僧曰我十年前与彼会於一精舎僅得一面識、不為無因縁、言畢遽然拍余背曰、京山老人醒眠長兄忘我歟、余愕然不得応、時船着行徳之岸舟中之人皆上岸、不得絮叨吐欵于茲矣、此夕綴其言於逆旅燈下以為序云

天保十一年庚子潔月　京山人百樹并書

青空文庫情報

底本：「北越雪譜」ワイド版岩波文庫、岩波書店
　1991（平成3）年12月5日第1刷発行
　2013（平成25）年5月15日第6刷発行
底本の親本：「北越雪譜」岩波文庫、岩波書店
　1978（昭和53）年3月16日第22刷改訂発行
初出：「北越雪譜二編四巻」文溪堂
　1841（天保12）年11月
※「シテ」の合字は、仮名にあらためました。
入力：富田晶子
校正：きゅうり
2019年12月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



北越雪譜

北越雪譜二編叙

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　京山人百樹
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/